# 理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1


## 平成十二年度　県教研　参加報告

印西市立小倉台小学校　吉野　信之

一年目の研究でありデータの蓄積がない分、実績から得た児童の姿を強調した内容で県教研に臨んだ。全体会に続き、午後から白子町内の各ホテルに分散し、分科会が始まった。テーマを基に三つの柱に分け討議。各支部のテーマを記し、報告にかえさせていただく。

### 一の柱　理科における環境学習の在り方（一日目）

（一）現地学習と子どもの意欲化
六年「土地のつくり」を通して、学区内に学習に適した崖がないため、バスを利用し現地学習をした実践。
［山武支部］

（二）地域の自然を見つめる理科学習
六年「土地のつくり」で学区に点在する地層観察から自由な表現活動でまとめた。移動博物館（中央博物館）による校庭のボーリングも実施。
［夷隅支部］

（三）生活と自然環境の関係を意欲的に追求する学習指導の在り方
六年「人の生活と自然かんきょう」で、学区に流れる小糸川の探索を通して環境悪化を体感し、自分の問題として自然環境を捉えていった。
［君津支部］

### 二の柱　地域の自然を生かした理科学習在り方（一～二日目）

（四）身近な環境に目を向ける理科教育（理科から総合的な学習へ）
総合的な学習「前川と話そう」に関連する五年生の実践。地域のクロメダカ探しから学習は始まる。
［市原支部］

（五）地域教材の活用を通した「自然に親しむ」心情を高める学習指導の工夫（「季節と生き物」）地域に生息するトウキョウサンショウウオを活用した四年の実践
［東総支部］

（六）直接体験を重視した指導法の在り方（六年「植物のはたらき」）国語「生きている土」を導入として活用。土の働きから植物の成長へと展開。
［船橋支部］

（七）印旛支部の提案（筆者省略）

（八）児童が主体的に取り組む自然観察（児童の興味関心を生かして）三年「チョウを育てよう」で教室内にセットしたカブトムシを使った実践。
［安房支部］

### 三の柱　科学的な見方・考え方を養う理科学習の在り方（二日目）

（九）一人一人が主体的に問題解決に取り組むようにするための指導の在り方
六年「電流の働き」等を通して、レポート作成の有効性についての実践。
［長生支部］

（十）児童自ら考え、主体的に学習に取り組む支援の在り方
総合的な学習の時間を視野に入れた五年「太陽と月」を通して、コンピューター等のメディア機器の活用実践。
［香取支部］

（十一）共に学び合い科学的な論理を深める子どもを育てる理科学習の在り方（コミュニケーション）四年「水・空気・水蒸気」でディベート的要素を組み込んだ討論活動を取り入れ問題解決していく実践。
［千葉支部］

【共同提案者より】
テーマを絞ること、アンケート項目、言葉の定義、ポートフォリオファイルの有効性、評価の重要性等に関して、二名の先生から指導・助言をいただいた。

四街道市立四街道中学校　齊藤　博子

第五十次千葉県教育研究白子集会において、各支部提案された内容を以下にまとめる。

〔長生〕サーモスタットとヒーターを用いた蒸発法による巨大結晶づくり。誰にでも簡単にできる方法で、一週間位で幅十㎝程に成長する結晶が紹介された。

〔山武〕地域の自然の教材化として生物データベースづくりに取り組んでいる。デジタルカメラを活用した顕微鏡写真が紹介され、より手軽な使い方や機種についての情報交換がされた。

〔安房〕生徒の発想を豊かにする実験として、身近な素材の活用に取り組んだ実践。理科室だけの授業から身の回りに目を向ける良い機会となったという報告がされた。

〔千葉〕生徒が自ら学び、自己表現力を高めるための理科における指導過程の工夫に取り組んでいる。学校全体でコミュニケーション活動に力を入れており、他教科との関連も図られている。課題解決学習を取り入れた指導過程の工夫も、生徒が教師役を務める生徒主導型の授業も、生徒の主体的な自己表現を促し、その力を高めるのに有効であった。

〔印旛〕環境学習の視点から考えた生きる力を育む理科学習の在り方についての研究報告。授業の中で十分程度の時間で行うショートプログラムと、多様な学習活動を取り入れた一時間扱いのロングプログラムの開発を柱とした、三年間の学習を通した実践を提案した。研究のまとめにあたり、総合的な学習の時間との関連についても考察した。

〔夷隅〕昨年度から取り組んでいる表現力の指導法を発展させ、車の両輪のような関係にある思考力も同時に育成する学習課程の工夫に取り組んだ。生徒が教え合う授業と、夏休みの自由研究をカリキュラムに位置づけることは有効な手立てであった。また、ノートづくりの指導や自己評価を計画的に実施することがより、効果を高めたと思われる。

〔君津〕デジタルカメラを用いた顕微鏡観察記録についての実践報告。機材についての詳しい情報が紹介され、今後広く活用されていくことが予想される話し合いとなった。一方で、スケッチという技法の良さも認め、観察記録の技法として、目的に応じて使い分けていくことが必要であろうとなった。

〔東総〕環境教育を推進するための指導の在り方という研究主題で三年間にわたる東総地域の環境調査の結果がまとめられた。これからの授業への活用が期待される。

〔市川〕野外観察における学びの協同化として、野草マップの活用を中心に報告された。野草マップを野草ガイドやビンゴゲームを取り入れて活用することが有効であることが明らかになった。

〔市原〕地域性を生かした授業の工夫が、地域の動物実態調査を通して行われている。ここでもデジタルカメラ・パソコンが活用されており、生き物図鑑などの教材が開発されている。三年の選択理科や総合的な学習の時間での活用が考えられる。

共同研究者の先生方からは「生徒は、学ぶ教師の姿勢に共感するものである。」との言葉をいただいた。教師自身が研究に励み、自分自身の考え、姿勢を見直すことの意義を再認識することができた。

――編集後記――

理研会報第二百八十七号をお届けいたします。今回は、「県教研参加報告」ということで二名の先生方の記事を掲載いたしました

次号は「私の授業実践」を掲載したいと思います。

＊投稿等につきましては、各研究部長にお尋ねください。

（印教研理科研究部事務局）